

## 令和4年度 学校運営連絡協議会実施報告書

### 1 組織

- (1) 東京都立三田高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主幹教諭（庶務担当）＝事務局長、副校長、非常勤教員 計3名
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭5名（教務担当、生活指導担当、庶務担当、1・2学年担当）、主任教諭3名（国際教育部主任、進路指導部主任、第3学年主任）主任養護教諭1名 計12名
  - ・評価委員の構成  
副校長、主幹教諭（生活指導担当）、主幹教諭（庶務担当） 計3名
- (4) 協議委員の構成  
有識者3名（大学名誉教授、大学客員教授、進路指導研究会）、PTA会長、同窓会会長、同窓会役員、地域住民代表、近隣中学校長、近隣小学校長、消防署出張所長、区防災担当者、警察署生活安全課長 計12名
  - ・評価委員の構成  
有識者2名（大学名誉教授、大学客員教授）、PTA会長、同窓会会長 計4名

### 2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
  - 第1回 令和4年6月24日（金）15時30分から17時 内部委員12名、協議委員10名  
学校経営計画・現状と課題・各分掌等の取組計画説明、三田高校が目指すべき生徒像の将来像、観点別学習状況の評価・ルーブリック評価の定着、生徒一人PC1台を活用した取組、採点分析システムの活用
  - 第2回 令和4年11月4日（金）15時50分から17時 内部委員12名、協議委員8名  
学校経営計画の進捗状況、令和5年度学校経営計画の骨子、分掌・学年等業務取組の中間報告、学校行事の実施状況（コロナ対応しながら）、東京都指定校事業、進学指導推進校、学級増の対応について、中学生の本校志望状況の分析  
意見交換
  - 第3回 令和5年2月9日（木）15時30分から17時10分 内部委員12名、協議委員11名  
本年度の学校の取組と令和4年度学校経営報告（案）、思考力の育成について（定期考査等における出題形式の調査）、分掌・学年等の年度末報告、学校評価アンケートの結果及び分析
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
  - 第1回 令和4年6月24日（金）協議会中で開催  
令和3年度学校評価結果を踏まえた課題の確認、令和4年度学校評価の基本方針の確認、前年度学校評価アンケート及び結果配布
  - 第2回 令和4年11月4日（金）15時30分から15時50分 内部委員3名、協議委員2名  
学校評価アンケート項目・質問内容の検討
  - 第3回 令和5年2月9日（木）15時から15時30分 内部委員2名、協議委員4名  
令和4年度学校評価実施状況・回収状況・集計結果報告、アンケート結果の分析・考察、評価結果のフィードバック

### 3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価アンケート報告）

- (1) 学校評価の観点  
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施した。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
  - ・12月 全校生徒 対象：819人 回収：744人 回収率：90.8%
  - ・12月 保護者全員 対象：819人 回収：616人 回収率：75.2%
  - ・12月 教職員 対象：55人 回収：54人 回収率：98.2%

### (3) 主な評価項目

- ・学校満足度、教育方針の理解、学習指導、施設・設備、進路指導、国際理解教育、生活指導、特別活動・部活動、安心安全な学校生活、防災教育、相談体制、地域連携、東京都教育委員会指定事業、ライフ・ワーク・バランスの推進（働き方改革）

### (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）

- ・「入学満足度」は、生徒・保護者・教員ともに肯定的回答が多い。
- ・「本校の期待する生徒の姿」の前文にある「スローガン」の認知度は、全体として僅かに上がった。
- ・「授業への取組」は、生徒・保護者・教員ともに肯定的回答が多く、生徒は真面目に授業に取り組んでいると評価している。
- ・「自宅学習への取組」は、教員では肯定的回答が94%あるが、保護者70%、生徒約67%と共に少ない。学年別に見ると、受験を控えている3年生では肯定的回答が約80%あるが、1・2年では65・67%と低く、教員の評価と乖離している。
- ・「教員の教材・教え方への工夫」、「教員の質問への対応」は、昨年度と同様大きな変化は見られなかった。教員では質問への対応より教え方の工夫の方が自己評価が高いが、生徒・保護者では質問への対応に対する評価の方が高い。ただし、保護者の回答では、「わからない」が30%以上あるため、肯定的回答は50から60%台に留まっており、生徒と比べて肯定的回答が25%以上少ない。
- ・「施設・設備」は、三者ともに例年通り否定的回答が肯定的回答よりも多く、肯定的回答が三者共に全項目中最も少なく、否定的回答が際立って多い。教員の肯定的回答は僅か7.4%しかない。
- ・「校内美化」は、生徒・保護者は肯定的回答が微増している。しかし、三者共に他の項目と比べて肯定的回答は少ない。生徒では全項目中3番目に少なく、教員では2番目に少ない。
- ・「適切な進路指導」は、肯定的回答が教員は100%で、生徒・保護者では横ばい状態だった。保護者は、1年保護者で「わからない」の回答が20%近くあるが、昨年1年生に比べると少ない。現3年生について入学年度から見ると、保護者の「わからない」の回答がかなり減少した。
- ・「将来を考える機会」は、教員・保護者で肯定的回答が減少した。生徒について学年別に見ると、直近3年間、1年生で肯定的回答が最も多い。現3年生の入学年度からの推移について見ても、1年次の肯定的回答が最も多い。
- ・「将来について考えている」は、昨年度、今年度ともに保護者の肯定的回答が生徒・教員と比較して多かった。また、今年度は生徒・保護者共に学年別の差は殆ど見られなかった。
- ・「視野を広げる教育」については、教員では肯定的回答が今まで90%以上で推移していた。それに比較すると今年度83.7%で減少した。保護者全体では肯定的回答が少し減少した。生徒全体では一昨年度・昨年度から連続して増加している。現3年生について入学年度から見ると、生徒は肯定的回答が漸増しているが、保護者は反対に少しずつ減少している。
- ・「基本的生活習慣」は、生徒では肯定的回答が昨年度、一昨年度と同程度である。教員・保護者ではやや減少した。
- ・「規範意識」は、肯定的回答が三者共に約90%であった。
- ・「品位」は、肯定的回答が教員・生徒は90%前後であるが、それに比較すると保護者はやや少ない。
- ・「学校行事」は、この3年間コロナ禍ではあったが、肯定的回答は生徒・保護者共に昨年、一昨年を上回っている。
- ・「部活動」は、一昨年度は新型コロナウイルス対応で3年生にとっては活動できる最後の期間に部活動や公式大会が中止となり、3年生の肯定的回答が生徒で50%を下回り、保護者では40%を下回った。昨年度・今年度と活動時間の制限等はあったが、公式試合は実施され、生徒・保護者ともに肯定的回答が2・3年生で増加し、全学年で一昨年度を上回った。
- ・「体罰・いじめがない」は、肯定的回答が昨年度同様、生徒・保護者の全学年で90%を超え、生徒では全項目中直近3年間連続で最も多く、保護者では4番目に多く、教員ではここ3年間100%と評価が高い。
- ・「防災教育」は、一昨年度は三者ともに肯定的回答が大幅に減少し、昨年度も生徒・保護者では連続して減少したが、教員では肯定的回答が増加した。保護者では一昨年度から「わからない」が連続して増加し、全項目中2番目に多く、肯定的回答も少なく40%を僅かに上回る程度である。新型コロナウイルス対応により、1年生で実施していた宿泊防災訓練が一昨年度から中止となり、避難訓練は一昨年度から放送による訓練となったこと等が大きな要因と考えられる。宿泊防災訓練については昨年

度から推進校のみの実施となり、本校では代わりに1年生で総合防災訓練の実施を計画している。

(7月に実施予定であったが、3月に延期されている。)敷地が狭く実践的訓練に制約があるが、生徒の意識に残る避難訓練・防災訓練を繰り返し実施する等、防災教育の推進を図る必要がある。自由記述からも生徒の防災意識の高さが感じられるものが多かった。

- ・「相談・連絡への対応」は、今年度生徒は昨年度より若干肯定的回答が減少した。保護者では昨年度より若干増加した。教員では3年連続で100%である。生徒では3年間とも肯定的回答が90%以上であるが、保護者では「わからない」が20%以上あり、肯定的回答は生徒と比較すると20%以上少ない。
- ・「地域との良い関係」は、教員では肯定的回答が以前まで90%台で推移していた。一昨年度・昨年度は80%台前半に、今年度は70%台前半に減少した。生徒・保護者ともに例年、全設問平均を下回り、教員との評価の差が大きい項目である。保護者では毎年「わからない」が全項目中で最も多いが今年度も下から2番目であった。
- ・「進学指導推進校の認知度」は、直近の3年間、生徒では81~83%、保護者では92~88%で推移し、保護者の方が生徒より10%近く高い。
- ・「英語教育推進校」から発展的に変わった「GE-NET20の認知度」は、生徒と保護者共に平均は40から50%台で、「英語教育推進校」の認知度(生徒87.4%、保護者88.2%)から著しく減少した。「英語教育推進校」のネーミングはどういう学校か分かり易かったが、「GE-NET20」は生徒・保護者そして本校への進学を考えている中学生やその保護者にも、どんな取組なのか発信の工夫が必要である。
- ・各事業の成果については、いずれも保護者では「わからない」が多く、肯定的回答は生徒より大幅に少ない。事業の成果については、保護者には評価が難しいと思われる。今後、それぞれの事業の取組を分かり易くHP等で紹介するなり学校からの発信の工夫が必要である。
- ・「働き方改革の認知度」は、平成31(令和元)年度に学校で具体的な取組が開始され、生徒の肯定的回答がその年約14%増加し約4分の3となった。しかし、昨年度から減少傾向にあり、昨年度は7%減少し、今年度はさらに減少した。保護者では一昨年度まで2年連続で少しずつ上昇していたが、昨年度、今年度は一昨年度と同程度であった。教員の肯定的回答は上昇傾向であった一昨年度、昨年度に比較して10%以上減少していた。今年度は、高1からの新指導要領導入、観点別評価、新たな採点システムや事務手続きシステム等が続々導入された。それらの過渡期にあたる大きいと考えられる。

#### (5) 評価結果の分析・考察(校長や学校全般への意見・提言)

- ・「学校行事の取組」については、この3年間のコロナ禍においても、肯定的回答は以前と同程度の数値を維持している。今年度も学校行事は、制約が多い中で実施方法を工夫し、実行委員会を中心に生徒が主体となって学校行事に取り組んだことが一定の理解を得ていると考えられる。しかし、生徒・保護者の自由記述においては、修学旅行の中止(現3年生)、体育祭・文化祭の実施形態、部活動の応援(いずれも今年度も保護者は来場できなかった)について、学校あるいは都教育委員会の対応に対する否定的な内容があり、実施形態変更等の対応に対する生徒・保護者の率直な心情が表れている。
- ・保護者の回答では、地域との関係、東京都教育委員会指定事業の成果、学習指導や教員の指導・対応等に関する項目で、「わからない」という回答が多く、肯定的回答が少ない。前述のように学校行事や部活動の大会等に保護者が来場できなかったこと、また授業公開も今年度中学生やその保護者には公開したものの本校保護者には公開できなかった。このことの影響も大きいと思われる。今後コロナ禍は徐々に終息の方向に向かうと思われるが、生徒・保護者への配布文書、保護者会、ホームページ等で保護者への情報発信を工夫するとともに、保護者との面談を設定する等、保護者とのより緊密な連携を図ることが重要である。
- ・コロナ禍においては、学校と保護者、学校と近隣との関係は授業公開や学校行事の公開が実施しにくく両者の関係が疎遠になりがちである。学校評価アンケート結果や自由記述から保護者は生徒たちの学校生活や部活等での様子を切に知りたがっており、それらを通じ学校全体の取組や様子を把握してきたことも改めて確認された。以前に比べてたくさんある学校情報の公開の手段(HP、ツイッター、一斉メール等)をうまく使い、学校の新しい取り組み(GE-NET20、探究学習等)の成果も今以上に発信していく必要性を感じている。

#### 4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

##### （1）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・学校評価の「入学満足度」「体罰・いじめがなく安心」「学校行事への取組」等の項目で肯定的回答が多い（いずれも90%以上）ことから、生徒・保護者の大多数は本校の学校生活やコロナ禍での学校行事の取組に満足していることが確認できた。一方、学校評価において否定的回答や保護者の「わからない」の回答が多い項目や自由記述、更に協議委員からいただく意見や助言、情報を通して、教職員が重点的に取り組むべき課題や取組の方向性について認識を深めることができた。
- ・協議委員に本校の教育活動を理解していただくことにより、本校の教育活動への協力や理解をいただくことができている。特に、コロナ禍で地域と連携した活動が制限を受けている状況下で、協議委員を通して近隣の小学校や中学校と連携した活動が少しでもできたことは、当該の児童や生徒・保護者、本校生徒の双方にとって貴重な経験となった。

##### （2）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・基本的な生活習慣に関する生徒の肯定的評価が学習指導や進路指導・キャリア教育と比べやや低い。教員の自由記述では、生徒指導においてさらなる教員間の連携を求める内容があった。また、生徒・保護者の自由記述では、服装指導を中心に校則の理由の説明・見直しを求める内容が見受けられた。教員の共通理解と同時に生徒及び保護者の理解を図り、継続して組織的に指導に取り組む必要がある。
- ・生徒及び保護者の自由記述や生徒の出席状況などから、多くの生徒が学校生活を楽しく有意義に過ごしているのに対して、一部の生徒は学校生活にうまく適応できていないことが伺える。個別の傾聴的会話、カウンセリング、サポートの充実を図ることが重要である。
- ・「防災教育」は、宿泊防災訓練がコロナ禍で中止になって以来、生徒・保護者共に肯定的回答がそれ以前に比べ大幅に減少し、今年度は三者共にさらに減少した。保護者では一昨年度から「わからない」が連続して増加している。敷地が狭く、様々な学校の取組で日程調整が難しい中ではあるが、首都直下地震や大都市における気象災害に対する防災・減災は、生徒だけに限らず喫緊の課題である。関係機関と連携し生徒の意識に残る避難訓練・防災訓練を繰り返し、実効ある防災教育の推進を図る必要がある。

#### 5 学校運営連絡協議会及び学校評価アンケートを活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

##### （1）学校運営

- ・教務部・進路指導部・教科主任会が連携し、新学習指導要領及びグランドデザインに基づいて編成した教育課程に基づく教育活動を実施する。
- ・戦略的な情報発信を展開し、本校の教育に理解と共感を抱く保護者・生徒の拡大を図り、「高い志の進路指導と国際理解教育」の具現化に対する意欲がある生徒の獲得を目指す。

##### （2）学習指導

- ・目標と評価を明確にし、基礎、基本の定着を図り、考えさせ、表現させる活動を通して、「主体的な学び」の実現を図る。ルーブリックを活用し、思考スキルの獲得を意識させ、自学自習の動機づけとする。
- ・「知的探究イノベーター推進事業」の成果を継承し、総合的な探究の時間及び全教科で「新しい価値」を創造する探究学習を推進する。先進校訪問等の成果を生かし、本校の課題研究等を確立する。
- ・Teams, Forms, OneNoteなどを活用して、生徒一人1台端末に対応した授業を実践するとともに、ペアワークやグループワークで話し合い活動を取り入れ、学習の深化を図り、協働学習を推進する。
- ・国際理解教育を推進するとともに、SDGsの17の目標と169のターゲットを意識した教育活動を行い、エシカルな行動を実践し実現を図ろうとする態度を身に付けさせ、グローバル人材を育成する。

##### （3）生活指導・進路指導

- ・時間遵守の精神の育成、ルールとマナーの徹底を図り、「時を守り、場を清め、礼を正す」指導を励行する。
- ・生徒会・ホームルーム活動・学校行事・部活動等の組織運営について、生徒主体に運営する支援体制を整備し、望ましい人間関係、協調・協働の精神や連携意識の涵養を図り、帰属意識を育成する。
- ・進路指導部主導による意図的・計画的なキャリア教育を推進し、面談指導を充実させ、評価・改善を重視したPDCAサイクルの指導を実施し、諦めない心と向上心を育成し、「高い志の進路実現」を図る。

##### （4）健康・安全

- ・生徒の自己管理能力を育成し、健康で安全を心がける生徒の育成を図るとともに、体罰・いじめの未然防止を徹底し、異年齢交流を実施し、人を大切にする教育を推進する。

- ・地域機関と連携した全校での防災・避難訓練を実施するとともに、生徒による防災支援隊を組織し、自助・共助の精神の育成を図る。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 12人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
6	3				1	2

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回